

真宗大谷派（東本願寺）天満別院

六字城

ROKUJIJO

2019/10/1

No.659

大阪市北区東天満 1-8-26
06-6351-3535
http://www.tenma-betsuin.jp
代表者 輪番・武宮 信勝



～南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう～
(慶讃法要テーマ)



さとお こうい 師
1949年(S.24)年1月10日生
岐阜県 大垣教区第17組
緑林寺住職・宗議会議員
(前宗務総長)

◆報恩講講師 プロフィール

10月3日(木) 初速夜 法話二席 13時30分	10月4日(金) 晨朝 日中 結願速夜 みのりコーラス 法話一席 7時 10時 13時 14時30分頃	10月5日(土) 結願晨朝 報徳会 結願日中 法話一席 7時 11時 13時30分
---	--	--

法要・行事予定

10月

2日	真如上人御祥月御命日 (午前8時) 天満別院報恩講 (3、4、5日) 御講師 里雄康意師
3日	初速夜 (午後1時30分)
4日	日中 (午前10時) 結願速夜 (午後1時30分) 『みのり』音楽法会 (午後2時30分)
5日	教如上人御祥月御命日 報徳会 (午前11時) 結願日中 (午後1時30分)
12日	闍如上人御速夜・常永代経 (午後2時)
13日	闍如上人御命日 兼日中 (午前8時)
14日	巧如上人御祥月御命日 (午前8時)
19日	天満別院合唱団『みのり』 (午後2時) 村上奈津子師 (第13組 超願寺住職)
27日	宗祖聖人御速夜 (午後2時)
28日	宗祖聖人御命日 兼日中 (午前8時)

11月

4日	達如上人御祥月御命日 (午前8時)
10日	同朋の会 (午後2時) 稲垣洋信師 (第7組 長教寺住職)
12日	闍如上人御速夜・常永代経 (午後2時)
13日	闍如上人御命日 兼日中 (午前8時)
16日	天満別院合唱団『みのり』 (午後2時) 村上奈津子師 (第13組 超願寺住職)
23日	ご本山 報恩講 団体参拝 (午前8時出発)
24日	顕如上人御祥月御命日 (午前8時) 正信偈書写の会 (午前10時) 定例法話 (午後1時30分) 澤田見師 (第12組 清澤寺住職)
27日	宗祖聖人御祥月御命日御速夜 (午後2時)
28日	宗祖聖人御祥月御命日晨朝 (午前8時) 宗祖聖人御祥月御命日日中 (午前10時)

◆今年も親鸞さまに
遇いに行きましょう！

真宗本廟（東本願寺）では来る11月21日（木）から28日（木）にかけて「御正忌報恩講」が厳修されます。
天満別院門徒会といたしましては、左記の日程で団体参拝を予定しています。今年は日中法要後に、岡崎別院、山科別院へ参拝いたします。皆様お誘い合わせのうえ、是非ご参加ください。ご門徒の皆様には同封しておりますご案内をご確認ください。

記

日程 11月23日（日）午前8時出発

集合 天満別院講堂（午前7時45分）

参加費 1人5000円

今月の伝道掲示板

信を得る
というは
ハイというまでの
ことでありますげな
— 鈴木 その —

編集後記

10月に入り、天満別院をかわきりに大阪教区内の各別院で報恩講をお迎えいたします。
天満別院では今年もおみがきや、のぼり旗・五色幕の設置、各お部屋のお掃除にはご門徒の皆様にお手伝いいただきます。立華においても、「ちいちの華」の皆様にご協力いただき、有縁の方々のご協力を得て、はじめて報恩講が厳修されるのだと改めて感じさせていただきました。私も精一杯勤めます。
(H)

本山（東本願寺）御用達

(株)平安法衣店

〒600-8153
京都市下京区東町本願寺大門前
電話 (075)-351-3681
FAX (075)-351-5563

株式会社 太田石材店

本社
〒536-0001 大阪市城東区古市1丁目23番20号
TEL(06)6930-5075 FAX(06)6930-5078

工場
〒536-0017 大阪市城東区新喜多東1丁目8番2号
TEL(06)6968-8111 FAX(06)6968-8805

<http://www.otasekizaiten.co.jp/>

ぶつを置くの？ 第7回 お内仏はぶつに置く？



答え

昨今、故郷から仏壇を移されることや大切な人が命終されたことが縁で初めて住まいに仏壇を置くという方が多いようです。その時、仏壇はどこに置いたらよいのかお困りの方も多いのではないのでしょうか。

真宗門徒は、お仏壇を「お内仏」と言い、御本尊である阿弥陀仏を

安置する所のことです。ですから、お内仏は阿弥陀仏の浄土を表したものであるということです。そしてその方角は西方にあると説かれていますが、東向きにお内仏を安置すれば西に向かい手を合washお念仏を申せるのでよいと思いますが、お住いの構造上安置できない場合もあるでしょう。その場合は、お住いの皆さまがお参りしやすいところ（家の中心や上座に当たるところ）に安置すれば向きに執われることはありません。

大切なことは場所や向きではなく、苦悩する私たちを「いつでもどこでも 誰にでも 選ばず 見捨てず 嫌わず」に救わんとする阿弥陀仏の大慈大悲のおところが、お内仏（仏壇）を通して、私に差し向けられていることに気づき、そのおところを依りどころとして、親鸞聖人がお勧めする真宗の教えを僧俗ともに聞いていく時と、場が開かれていくということです。

（第7組 長教寺 稲垣 洋信）

輪番雜感

「老いの身を生きる」

輪番 武宮 信勝

残暑で寝苦しい夜にも、鈴虫の鳴き音と共にやとと安らぎをいただく時節となりました。今や100歳以上のお年寄りが「1,238人」といわれ、私もふくめ団塊の世代が70歳を超える超高齢化社会を迎えています。先日、岐阜市内のお寺の御法縁に出向きました。住職さんから「今日は地区の敬老会と重なり、いつもより参詣の方は少ないと思います。」とご挨拶を受けました。言われた通り十数人の御門徒が本堂に身を置かれていました。法話の開口一番に、「本日は、近くで敬老会が催しされているとお聞きいたしましたが、それをなげうって、ようこそお寺に来てくださいました。……」すると、一番前にお座りになっておられた老人男性が「ワシは、まだ老人じゃない」と笑顔で答えておられました。その場が一瞬和みましたが、お寺でお座は、我一人のためと見定めておられるのでしょうか。「何をさしおいてでも、お寺に行かなきゃ」と私はいただきました。

ずっと以前に、ある御門徒さんの家に御法事に行きました。始まる前にお茶をいただきました。仏間の壁に数枚の賞状が飾られているのが目に留まりました。その中の一枚に、金婚式の表彰状がありました。結婚して50年を労う町長さんからの物でした。私は、つかさず横に座っておられた老夫婦に尋ねました。「金婚式の表彰後は何の式があるのですかねえ？」「ご院家さん、金婚式の後には葬式ですがなあ！」周りの参詣者もドット爆笑。

よく、「仏法を聞いたらどうなるんですか？」という質問を耳にします。私たちの人生から苦しみ・悲しみ・傷みが無くなくなって癒されるのではありません。阿弥陀さまから、「何もかも私一人のためなりの、今日一日」といただく眼差しを聞きとり、「よきことも、あしきことも、業報にさしまかせて、ひとえに本願をたのみまいらす」（歎異抄）と語られているとおり、あるがままの身の事実を引き受けさせていただく私になる。そのことによって、前の老人のようには明るく生きられる私にさせていただくのであります。

◆御講師 里雄 康意師から一言 講題 「凡夫の救い」

親鸞聖人が仏門に入り仏道を歩むにあたってかえられた課題は何であったのだろうか。

教言に「ひとすじに、具縛の凡夫、屠沽の下類、無碍光仏の不可思議の本願、広大智慧の名号を信樂すれば、煩惱を具足しながら、無上大涅槃にいたるなり」（『唯信鈔文意』）との言葉がある。

聖人によって受け継ぎ、あきらかにし伝えてくださった成仏道は、人間が人間の才覚や努力によって開く成仏道ではなく、生きとし生きるものを仏にならしめようとする阿弥陀仏の本願・念仏の信によって開かれる成仏道であります。仏になるような資質も手立てもないにも持ち合わせることもなく、この濁世を生きながらえるために煩惱にまみれ、悪を起し罪を造って生きざるをえない者が、阿弥陀仏の必至滅度の願、証大涅槃の願によって、人間の深い迷妄から目覚め、無上大涅槃に向かつて生きる道に立ちめられ、この救いのない人生を生き切っていく一人として誕生するのであります。

奉讃写真展と開催

昨年の天満別院報恩講に際し、門首後継者 能慈院さま御参修の報恩講の様子を、1階同朋会館（講堂）の各廊下に70枚程の写真を展示しています。また毎月開催されています「正信偈書写の会」の皆様の作品も併せて展示をいたしております。初めての試みですので、是非この機会にお誘い合わせてご覧ください。

報恩講

お手伝いをお願い

来る10月3日（木）～5日（土）、例年の如く天満別院報恩講が厳修されます。つきましてはご門徒の皆様にお手伝いをお願いしたいと存じます。1日だけでも構いません。ご参加いただきますようお願い申しあげます。

日程

10月4日（金） 9時～17時まで
10月5日（土） 9時～17時まで



12組（守口市）
唯稱寺住職 麻生 英城師
講題：彼岸に憶う「良時吉日に囚われて」

報告

◆秋季彼岸会 並 總永代経法要 兼 墓地納骨（物故者） 追弔法要

去る9月24日（火）、13時30分より彼岸会法要が勤まりました。御講師には麻生 英城師にお越しいただきました。先生は、「日の良し悪しやト占祭祀を頼りにして日暮らししている我々を、親鸞聖人はかなしきかなやと嘆いておられます。だが決して否定されたのではなく、どこまでも何かを頼りに善悪の行いをしていくことが哀れであるとおっしゃられ、また阿弥陀仏の本願は、無碍の一道を頭かにしておられ、どこまでも良時吉日にふりまわされることのないのちに目覚めましょう」と述べられました。

◆団体参拝のご紹介

去る9月、左記の方々が団体参拝にお越しく下さいました。輪番挨拶の後、別院の由緒・沿革について職員から説明があり、展示物をご覧いただきました。

9/5 長崎教区組門徒会の皆様



9/25 京都教区近江第10組の皆様